

第1回「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」検討委員会議事要旨

- 1 日 時 平成26年10月29日（水） 13時から15時まで
- 2 場 所 広島県広島市中区基町10番52号
広島県庁北館 2階 第1会議室
- 3 出席委員 牛山座長，新井委員，宇根委員，大野委員，奥委員，坂田委員，滝澤委員，
田中委員，東委員，丸山委員
- 4 議 事 (1) 説明事項
「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」について
(2) 検討事項
ア 「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」の取組素案について
イ 「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動条例（仮称）」の構成素案に
ついて
- 5 会議内容

議事（1） 「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」について

- ・ 消防団は地域のためにある。消防団を活用することを考えてほしい。
- ・ 女性防火クラブでは、災害発生時にできるのは後方支援。消防団や自主防災会と密接にかかわれば、少しでも役に立てると思う。
- ・ 災害対策基本法で定めた言葉を使うということが、住民に伝わらない原因になっているのではないか。住民が分かる言葉を使用してほしい。

議事（2）ア 「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」の取組素案について

（論点①，②）

- ・ 行動目標は分かりやすく良いが、「察知する」の後に、「判断する」とか「考える」のステップが必要ではないか。それを大きな柱に明示した方が、能動的に行動を起こすといったイメージが出る。
- ・ 町内会に参加しても訓練に参加しない人にどう働きかけるかを考える必要がある。それに加えて、日常的に声を掛け合う関係を作る必要がある。

議事（2）ア 「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」の取組素案について

（論点③）

- ・ 意識的に様々な立場のリーダーを増やす事が大切。たとえば、研修開催時には、「女性のための」研修の開催とすると参加者が集まりやすくなったりする。

- ・ 研修を受けたい人より、受けてほしい人を対象に実施できるよう、関係団体等を有効に使うべき。動きやすい組織体を活用して、輪を広げるべき。こうあるべきという仕組みにこだわりすぎてはいけない。
- ・ 自主的にやれと言われるのは、結局自主性を損なう。自主的にやりなさいというようなトップダウンの言葉が多いので、「考えてみましょう」などの自ら考えてもらえるような表現を使うと良い。
- ・ 支援するという考え方を転換する必要がある。防災は、行政だけが頑張ればいいのではない。こうした意識は、全国的に共有されてきている。住民も、「知らなかった」「知らせてくれなかった」では、だんだん済まなくなっている。
- ・ 全国的には、避難所を開設していないので避難勧告が出せないといった考え方は通用しなくなっている。切迫した状況では、避難所の開設よりも、安全確保を呼びかけることが大切。
- ・ ハザードマップは重要だが、そのまま信じ込まれては困る。精度の高い情報を求められても、無理だと伝えることも必要。現実と乖離した使われ方がしないように注意すべき。

議事（２）イ 「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動条例（仮称）」の構成素案について

- ・ 自助と公助どちらかということではなく、両方対等の関係でそれぞれが大切という理念を条例に盛り込んでどうか。
- ・ 個別具体的なことは、アクションプランなどに記載し、条例は一般的なことや理念を書くものという認識をもっている。